

京都薬科大学「京薬論集刊行会」主催

◆◆第17回文化講演会◆◆

「京薬論集刊行会」は、京都薬科大学の基礎科学系教員を中心とする研究・教育団体です。今年で17回目の講演会となります。
予約不要・聴講無料です。どうぞお楽しみください。(京薬論集刊行会会長：有本收)

今井 千壽氏

(京都薬科大学 基礎科学系一般教育分野 准教授)

英国ヴィクトリア朝における紅茶の意味

“Thank God for tea! What would the world do without tea! . . . I am glad I was not born before tea.”
「お茶を与え賜うた神に感謝を！お茶がなければ世界はどうなるだろう！…お茶のない時代に生まれなくてよかった。」これは英国の聖職者Sydney Smithが残した言葉です。17世紀に初めて英国に紹介された東アジア原産の茶は、その後人々を魅了しながら社会全体に普及し、独自の伝統・文化を形成しました。英国での茶受容の歴史をたどつつ、喫茶習慣全盛期のヴィクトリア朝(1837年～1901年)において、紅茶がいかに重要な存在であったのかお話ししたいと思います。

三宅 えり氏

(京都外国語大学 非常勤講師)

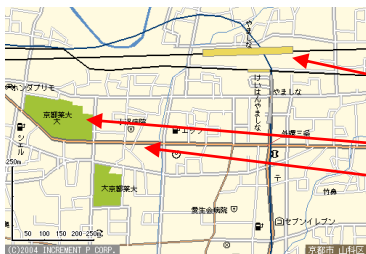
源氏物語と病

『源氏物語』といえば、皆さまご存じの通り、平安時代の貴族、光源氏が数多くの女性たちと恋をする物語です。光源氏をとりまく女性たちの中には、病(やまい)を患う登場人物がおり、彼女たちの病が物語の展開上、とても重要な役割を担っています。今回は、若くして病死した光源氏の母、桐壺更衣、「物の怪(もののけ)」という平安時代の人が病の原因と考えていたものに取り憑かれた光源氏の恋人の夕顔、正妻の葵上、最愛の人といわれた紫上、この4人についてお話ししたいと思います。また、物語の描写から平安時代の病に対する考え方や対処法と現代の病に対する考え方や対処法を比べてみたいと思います。

日時：2019年11月3日(日) 14:00～16:00

会場：京都薬科大学 本校地 躬行館2階 Q21講義室

京都市山科区御陵中内町5番地、JR・地下鉄東西線・京阪京津線の各「山科駅」から(新)三条通を西へ約10分。



JR 山科駅

京都薬科大学本校地

三条通

躬行館

正門



問い合わせ先：京薬論集刊行会 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5
京都薬科大学 物理学分野内 Tel:075(595)4701